

## 第5学年 音楽科学習指導案（略案）

○組 計40人  
指導者 ○○ ○○

- 1 題材 **せりつと低音・和音**  
 教材 「静かにねむれ」 武井君子 作詞 フォスター 作曲（本時主教材）  
 「それは地球」 長崎一男 作詞 森京太郎 作曲  
 ◎「威風堂々 第1番」 エルガー 作曲

### 2 本時（3／5）

#### (1) 目標

- ア 拍の流れにのって、低音を演奏することができる。【知識及び技能】  
 イ 旋律と低音の響き合いに気を付けながら、旋律に響き合う低音を探す活動に進んで取り組むことができる。【学びに向かう力、人間性等】

#### (2) 本時の展開に当たって

低音が移り変わることによって旋律に響き合うことよさを感じ取ることができるようにするために、旋律に響き合っている低音と、そうでない低音とを比較鑑賞させる活動を取り入れるようにする。

#### (3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 旋律に低音を加えた「静かにねむれ」の範奏を聴き、感じたことを話し合う。 ・ 旋律だけより音が重なってきれい。	(分) ↑ 10	○ 前時に学習した「旋律」だけの演奏よりも音が重なって豊かな響きになることに気付けるようにするために、低音を加えた演奏を聴かせるようにする。 ○ 本時のめあてを導き出すために、旋律に響き合っていない演奏を聴かせ「さっきの演奏とどのように違っていたかな」と問いかけるようにする。
課題追求	2 本時のめあてについて話し合う。 表現の工夫 旋律にひびき合うような低音をさがそう。 ・ 旋律に響き合わない低音だとおかしいよ。 ・ 落ち着いた感じがしない。	↓ ↑ 30	○ 低音の移り変わりに気付くことができるようにするために、低音のみを取り出して聴かせるようにする。 ○ 子供たちが主体的に比較・検討して低音探しができるようにするために、使用する低音をド・ファ・ソの三つのみにする。
相互発表・鑑賞	3 旋律に合う低音を探す。 (1) 使う低音の種類を知る。 (2) 鍵盤ハーモニカで低音を練習する。 (3) 1段目を小節ごとに、旋律に合わせながら低音を探す。 4 探してできた低音をグループ演奏の形で発表する。 ・ ○班の低音は、ぼくたちと同じで旋律に響き合っていました。	↓ ↑ 5	○ 旋律と低音が響き合っているか注意深く聴けるようにするために、グループのうち1人ずつ低音と和音をキーボードで演奏させ、あとの子供は聴く活動をさせるようにする。 ○ 低音をうまく演奏できない子供には、スムーズに演奏できるようにするために、正しく低音を演奏するための指使いを助言したり、その子供の体を軽くリズム打ちしながら、拍の流れにのって演奏させたりする。
まとめ	5 曲の最後まで低音を知り、練習する。 6 学習のまとめをする。 ・ 旋律に響き合う低音と、合わない低音のあることがわかりました。	↓	○ 本時で学んだ旋律と低音の響き合いや、正しく演奏する技能を次時に生かすことができるように、わかったことやできるようになったことを発表させる。